

第1章



復旧・復興トピックス

平成 29 年度における国・県・土木部の主な出来事について時系列で記載しています。

国・宮城県・土木部の7年目の歩み

平成29年4月

国・宮城県全体のトピックス

1日：常磐自動車道「山元南スマートIC」が開通

開通により、地域の観光振興や産業の活性化等が見込まれるほか、災害に強いネットワークの確保や救急医療施設へのアクセス向上にもつながることが期待されます。



1日：亘理町「おおくま・よしだ防災広場」が完成

津波避難計画に定める避難路沿いに防災拠点として機能する防災広場を逢隈地区と吉田地区に整備し、4月1日より供用を開始しました。



3日：任期付職員と新規採用職員の辞令交付式

復旧・復興業務に携わる任期付職員の辞令交付式が、県庁1階みやぎ広報室にて行われました。任期付職員は、復興事業で職員不足が顕著になっている土木や建築、用地補償事務などの業務を県の機関や被災市町で行うこととなっています。また、同日、新規採用職員の辞令交付式も県庁2階講堂で行われました。

15日：東松島市復興再生多目的施設

「セルコホームあおみな」がオープン

23日：南三陸町復興商店街

「南三陸ハマレ歌津」がオープン

27日：吉野復興大臣が宮城県庁訪問

新たに就任した吉野復興大臣が就任後初めて県庁を訪れ、村井知事と復興状況等について意見交換を行いました。



29日：松島町「石田沢防災センター」が完成

災害時に住民や観光客を受け入れるほか、災害情報の発信や炊き出し機能を有しています。また、駐車場は一時避難場所となり、さらに災害派遣や緊急消防援助隊などの集結場所となります。

土木部のトピックス

3日：辞令伝達式を開催

自治法派遣職員85名に対して、土木部長による辞令伝達を行いました。



16日：白石川復興パネル展示

大河原桜まつり開催に合わせて白石川右岸で、スマイルリバーサポーターとともにイベントを実施し、県では東日本大震災の復旧状況等のパネル展示を行いました。



25～26日：自治法派遣職員研修を開催

自治法派遣職員（52名）を対象として、宮城県の被災状況、復興状況等の現状と、宮城県での実務に関する研修を開催しました。



28日：第1回復興まちづくり事業勉強会を開催

新たに沿岸市町の復興まちづくり事業に携わる職員を対象に第1回復興まちづくり事業勉強会を実施しました。



国・宮城県全体のトピックス

17日：第1回「“みやぎの復興現場”訪問事業」
(登米地域)

東日本大震災からの復興に前向きに取り組んでいる企業や団体などを村井知事が訪問する「“みやぎの復興現場”訪問事業」を実施しました。



この日は、東部地方振興事務所登米地域事務所管内において「株式会社 登米村田製作所」と「社会福祉法人 登米市社会福祉協議会 特別養護老人ホーム 風の路」を訪問しました。



特別養護老人ホーム 風の路

28日：気仙沼市災害公営住宅整備完了・入居式

市営気仙沼駅前住宅の完成により、気仙沼市における災害公営住宅（計画戸数2,087戸）の整備が完了し、その完成式典が開催されました。

30日：女川町「女川魚市場」竣工式
高度衛生管理型の施設が全面稼働

女川町地方卸売市場（女川魚市場）の西棟荷捌き場が完成、同施設のすべての建設工事が完了し、竣工式が開かれました。



震災で壊滅的な被害を受けた魚市場でしたが、平成25年に新施設の建設に着手し、東荷捌き場、管理棟、中央棟荷捌き場、西棟荷捌き場と段階的に整備して順次供用を開始。高度衛生管理型の施設で、中央・西棟の両荷捌き場は鳥獣が入らないよう密閉式の構造とし、衛生管理・水産物の鮮度管理を徹底しています。一般の方が市場や競りの様子を見学できる通路を設け、水揚げされた新鮮な魚を提供する食堂も営業しています。

土木部のトピックス

24～26日：新任職員研修を開催

平成29年度に採用された新任職員（39名）を対象として、土木部の概要や共通仕様書、建設業法令等の実務的内容の研修、実際の復興事業の現場見学等を実施しました。

25日～6月8日：JR秋田駅東西自由通路で
みやぎの復興まちづくりパネル展を開催

JR秋田駅東西自由通路（ぼぼろーど）において「みやぎの復興まちづくりパネル展 in あきた」を開催しました。駅を利用する大勢の皆様が沿岸15市町の様子をご覧いただきました。



26日：津波防災シンポジウムを開催

名取市文化会館において、「津波防災シンポジウム ～新たなコミュニティで生かされる震災伝承とは～」を開催し、約300名の参加者と地域コミュニティにおける伝承の在り方について理解を深めました。

29日～6月9日：平成28年度土砂災害防止に
関する絵画・作文コンクール入賞作品パネル展

土砂災害及びその防止についての理解と関心を深めてもらうため、次代を担う小・中学生を対象に開催したコンクールの県審査入賞作品17点を展示しました。



国・宮城県全体のトピックス

8日：女子プロゴルフトーナメントの収益金を「東日本大震災みやぎこども育英募金」へご寄附いただきました

平成29年3月に宮崎市で開催された「第5回アクサレディスゴルフトーナメント in MIYAZAKI」の関係者が、県庁を訪れ、トーナメントなどの寄附金を東日本大震災みやぎこども育英募金へ寄贈し、村井知事に目録を手渡しました。



このトーナメントは、「みらいをつくろう」の大会コンセプトのもと、東日本大震災で被災した子どもたちへの就学支援として第1回大会から、宮城・岩手・福島の3県に寄附金を寄贈しており、本県への寄附は2回目となります。

27日：宮城県議会と復興副大臣および宮城復興局との意見交換会

東日本大震災からの復旧・復興に係る諸問題の解決策を検討するため、宮城県議会大震災復興調査特別委員会と橋復興副大臣、宮城復興局による意見交換会が宮城県議会庁舎で行われました。冒頭のあいさつで橋復興副大臣は「住宅の再建、まちづくりは、一步一步目に見える形で進んでいるものの、なりわいの再生、心の復興といった、ステージの変化に合わせた様々な課題も解決していかなければならない。復興の前進に向けて、本日いただく意見をしっかりと生かしていきたい」と述べました。



30日：石巻市「いしのまき元気いちば」がオープン

新鮮な魚や野菜、水産加工品などのマーケットとレストランを併設した新たな観光拠点「いしのまき元気いちば」がオープンしました。



土木部のトピックス

1日：宮城県港湾復興大会開催

宮城県港湾協会による「港湾復興大会」が開催され、宮城県の港湾復興に関する決議が採択されました。



12日：土木部防災訓練を実施

今後起こり得る大規模地震・津波等に対する防災体制の確立と防災意識の高揚を図るため、「みやぎ県民防災の日」に合わせて土木部防災訓練を実施しました。同時に土木部業務継続計画（BCP）の確認も行いました。



13日：(主)女川牡鹿線 小乗トンネル貫通

復興道路事業の小乗浜工区は、平成24年度より女川町小乗浜地内から高白浜地内までの1.2km区間で事業を進めています。

事業区間の一部である「(仮称)小乗浜トンネル」の貫通に伴い、トンネルの貫通記念式典を開催し、併せて、同トンネルの名称を「小乗トンネル」に決定したことを披露しました。



17日：(一)馬場只越線 只越バイパス開通

当路線は気仙沼市唐桑町中心部と三陸沿岸道路を結ぶ重要な路線であり、供用により、安全で円滑な交通確保が図られることから、唐桑地域の復興はもとより、水産業や観光振興に大きく寄与することが期待されています。



国・宮城県全体のトピックス

12日：名取市閑上地区の集合復興公営住宅
(第1期)が完成

東日本大震災の津波で大きな被害を受けた名取市閑上地区で、集合住宅(第1期140戸)4棟が完成しました。建物内には1階に防災倉庫を、屋外の広場には、かまどベンチや防災トイレなどを整備し、災害時に備えています。



13～14日：宮城・三重・広島3県知事会議

13日、宮城・三重・広島3県知事会議を南三陸町で開催しました。三重・広島の両県からは東日本大震災以降、応援職員の派遣をはじめとした復興支援を継続していただいています。会議では三重県の鈴木英敬(すずきえいけい)知事、広島県の湯崎英彦(ゆざきひでひこ)知事と、「東日本大震災からの復旧・復興」、「県産食材の販路拡大」、「働き方改革推進に向けた取り組み」について、意見交換しました。14日には、南三陸町の防災対策庁舎を視察し、旧防災対策庁舎に献花を行いました。



14日：菫蒲田浜地区復旧・復興事業竣工式

宮城県と七ヶ浜町により、平成24年度から整備を進めてきた菫蒲田地区海岸災害復旧事業、菫蒲田復興道路事業並びに菫蒲田浜都市公園事業の竣工式を開催しました。同日、菫蒲田海水浴場の安全祈願祭も行われ、海水浴場が本格オープンしました。

15日：南三陸町「サンオーレそではま海水浴場」
がオープン17日：常磐自動車道(山元IC-岩沼IC間)
4車線化事業着工

4車線化の完成により、混雑解消や利便性・安全性の向上などが期待されています。



土木部のトピックス

5日～8月6日：徳島県内3箇所
みやぎの復興まちづくりパネル展を開催

徳島県内3箇所でパネル展を開催しました。南海トラフ地震が危惧されている中で高い関心を寄せていただきました。



10日：(国)398号 新相川橋開通

新相川橋は東日本大震災の大津波により、上部工が流出し、交通が遮断されるなどの甚大な被害を受けたため、復旧・復興事業を推進しており、取付道路の完成に伴い、車輛の通行が可能となりました。

14日：(主)塩釜七ヶ浜多賀城線
菫蒲田浜復興道路開通

「菫蒲田浜復興道路」は東日本大震災時の教訓を踏まえ、避難車両がスムーズに通行が可能となる幅員を確保した道路整備を行いました。

14日：3.11 東日本大震災伝承板を
菫蒲田地区海岸に設置

海岸災害復旧工事の竣工式に合わせて、2基目となる「東日本大震災伝承板」を設置しました。被災当時の写真や防潮堤復旧内容等について表示する看板となっています。

31日：仙台塩釜港(仙台港区)
臨港道路ふ頭8号線完成

港内交通の円滑化を図るために整備を進めていた臨港道路ふ頭8号線が完成し、供用を開始しました。



国・宮城県全体のトピックス

1日：山元町「ふるさとおもだか館」がオープン

「町民の安全・安心を守る防災拠点」としての機能と「親しみをもちやすい交流拠点」としての役割を担う施設です。愛称「ふるさとおもだか館」は平成28年度に坂元中学校の生徒が考えた中から選ばれたものであり、「おもだか」はおもだか科おもだか属の水生植物のことですが、坂元一帯を治めた大條家の家紋でもあり、「結束、団結、繁栄を願う」という思いが込められています。



22～23日：「2017“よい仕事おこし”フェア」

が開催

東京国際フォーラムにおいて、城南信用金庫の主催により「東北・熊本などの被災地の復興応援」、「地方創生」をメインテーマとした商談会が開催され、オープニングセレモニーでは、今回の目玉企画である岩手、宮城、福島、熊本の被災4県の米をブレンドして製造された日本酒「興（おこ）し酒プロジェクト」の紹介があり、「絆結（きゆ）」と命名された日本酒がお披露目されました。



24日：石巻市立雄勝小・中学校の新校舎が完成

雄勝小（児童20人）と雄勝中（生徒21人）の併設校舎で、新校舎は雄勝湾を望む高台に立ち、木造2階の普通教室棟、鉄筋コンクリート一部鉄骨造り3階の管理・特別教室棟、体育館などから成ります。



26日に多目的ホールで行われた落成式には、関係者や児童生徒ら約300人が出席し、亀山紘市長が「復興の象徴になるよう願っています」とあいさつし、菅原美樹校長は「子どもたちの笑顔や元気な姿を『復興の光』、『雄勝の風』として発信していきたい」と訴えました。

26日：東松島市野蒜ヶ丘地区災害公営住宅

全戸入居開始

土木部のトピックス

4～5日：徳島県内2箇所に出前講座を開催

7月5日～8月6日の期間で開催しました「みやぎの復興まちづくりパネル展」に関連し、徳島県庁および徳島県立防災センターで出前講座を開催しました。



7日：気仙沼向洋高校建築現場 見学会

小学生と保護者の方々に参加いただき、普段では入ることのできない高校の建築現場で建設機械に試乗するなど「ものづくり」の楽しさを体験いただきました。



8日：技術管理説明会を開催

県、市町村の技術職員（17名）を対象として、土木工事標準積算基準書の改定内容や復旧・復興事業の円滑な施工確保対策に関する事項等についての説明会を開催しました。



14日：仙台塩釜港（塩釜港区）西ふ頭（港橋前）胸壁完成

仙台港区、塩釜港区の全防潮堤の完成は平成32年度予定です。



24日：復興まちづくり事業勉強会特別編を開催

独立行政法人都市再生機構に御協力をいただき、「課題から仕事を作る。10年後を見据えた持続可能なまちづくり」をテーマに、「復興まちづくり勉強会 特別編」を開催しました。



国・宮城県全体のトピックス

3日：南三陸町役場新庁舎が開庁

新しい役場庁舎は、防災対策の拠点としての役場となるよう高台に建設し、太陽光などのエネルギー対策も講じています。また、FSC国際認証を取得した南三陸産の杉をいたる所に使用したり、来庁者が利用する機会の多い窓口業務部門を1階に配置することで、来庁者の利便性を確保したりしています。



26日：日本郵便株式会社と包括連携協定を締結

県と日本郵便株式会社は、活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展および県民サービスの向上を図ることを目的とした包括連携協定を締結しました。協定では、健康増進に関すること、安全・安心な暮らしの実現に関することなど全8項目について連携することとしており、具体的には、郵便局を活用した健康情報や復興情報の発信、「みやぎ水産の日」のPRなどについて協力して取り組みます。



30日：山元町「つばめの杜ひだまりホール」

がオープン

災害時には「町民の安全・安心を守る防災拠点」としての機能として、平常時には「地域の交流・活力を創造するための交流拠点」としての役割を担う施設です。



30日～10月1日：

「東北・みやぎ復興マラソン2017」を開催

名取市、岩沼市、亶理町の3市町で開催された「東北・みやぎ復興マラソン2017」では、全国から1万3千人のランナーが参加し、復興が進む沿岸部のコースを駆け抜けました。



土木部のトピックス

4～29日：みやぎ生協文化会館Wizでみやぎの復興まちづくりパネル展を開催

みやぎ生協文化会館Wizにおいてパネル展を開催しました。この取組は県とみやぎ生活協同組合との包括連携協定の一貫で行ったものです。



20日：二の倉道路改良工事完成

平成24年度から避難路として整備を進めてきた（一）岩沼海浜緑地線の復興道路L=362mが完成し供用開始しました。



22日：被災宅地危険度判定士講習会を開催

地震災害時の「被災宅地危険度判定」を実施する技術者を養成するため、県内の建築士等を対象に講習会を実施しました。



26日：仙台塩釜港体験・視察セミナー開催

仙台塩釜港体験・視察セミナーを開催し、宮城県だけでなく東北各県から多数の方にご参加いただきました。



28日：北部土木事務所管内

市町合同現場研修会を実施

管内市町の職員と合同で現地研修会を実施し、職員のスキルアップを図りました。（主）岩沼蔵王線大師・姥ヶ懐工区のトンネル工事と、山元町における東日本大震災の復旧状況を見学しました。



国・宮城県全体のトピックス

15日：東松島市野蒜ヶ丘まちびらきまつり

17日：宮城県気仙沼合同庁舎の開庁記念式

東日本大震災で被災し、移転建替を進めてきた気仙沼合同庁舎が竣工し、新庁舎は鉄骨5階建てで非常用発電設備や災害用備蓄食料等を保管する倉庫を設置するなど、圏域の防災拠点機能を備えるとともに、多様な行政ニーズへの対応が可能で、環境にも配慮した構造となっています。



25日：塩竈市「塩竈市魚市場」が完成

東日本大震災で被災し、平成25年度から建て替え工事を進め順次供用を開始してきた「塩竈市魚市場」が完成しました。安全・安心なおいしい魚を提供するだけでなく、市民や観光客が気軽に足を運べる施設として生まれ変わりました。また、魚市場の中に塩竈の旬を味わえる食堂と、水産加工品などの特産品を取りそろえた直売所がオープンしました。



29日：多賀城市宮内地区まちびらき植樹祭

29日：新築移転した気仙沼市立病院が開院

気仙沼地域の医療拠点となる「気仙沼市立病院」が新築移転により開院し、ヘリポートや免震構造など、災害時の拠点病院としての備えも強化されています。



土木部のトピックス

5日：宮城県土木部優良建設関連業務および優良技術者表彰式を開催

宮城県土木部発注の建設関連業務において、業務成績が特に優れた受注者及び管理技術者を対象に表彰式を行いました。



11日：(国) 398号 御前浜復興道路開通

「御前浜復興道路」は、東日本大震災で甚大な被害を受けた女川町御前浜地区や尾浦地区の防災集団移転団地を結び、女川町の市街地と接続する道路であり、県が整備する復興道路として、女川町内では初の開通となりました。



18～20日：東京都庁第一本庁舎45階展望室でみやぎの復興まちづくりパネル展を開催

東京都庁第一本庁舎45階展望室においてパネル展を開催しました。多くの観光客の皆様にもやぎの現在を知っていただくことができました。



28日：気仙沼大島大橋 見学会

架橋本体工事が完了したことから、気仙沼市の協力をいただき見学会を開催しました。見学会には、約400名の方々に参加いただき、事業の進捗を自分の足で実感していただきました。



国・宮城県全体のトピックス

5日：東松島市「東松島市東日本大震災復興祈念公園」が完成

震災遺構の旧野蒜駅プラットホームを中心に整備された「東松島市東日本大震災復興祈念公園」が完成し、式典では多くの参列者が故人を追悼しました。



14日：原子力防災訓練を実施

東北電力女川原子力発電所から30キロ圏内にある7市町（女川町、石巻市、登米市、東松島市、涌谷町、美里町および南三陸町）と県主催による原子力防災訓練が行われ、内閣府、県警、自衛隊など関係する78機関から約25,000人が参加しました。



15日：第2回「“みやぎの復興現場”訪問事業」（栗原地域）

北部地方振興事務所栗原地域事務所管内において「有限会社 耕(こう)佑(ゆう)」と「栗原市立志波姫幼稚園・栗原市志波姫保育所」を訪問しました。



17日：名取市閑上地区の集合復興公営住宅（第2期）が完成

25日：女川町桜ヶ丘東住宅 入居式

26～27日：ぼうさいこくたい2017

パネル展示及びBuild Back Betterへ参加

仙台国際センターを会場に開催された「ぼうさいこくたい2017」において、復興まちづくり推進室ではパネル展示および、東北スペシャルセッションへ参加しました。このセッションでは、東日本大震災の復興に取り組む宮城県の事例を紹介しました。



土木部のトピックス

1日：知水講座を開催

「みやぎの礎を築いた治水・利水対策～江戸・明治期の舟運・新田開発と河川の歴史～」と題して、江戸から明治期に行われた舟運事業や新田開発の関係について学び、県内の河川特性を知るとともに、今後の河川整備のあり方を考えるきっかけとして、知水講座を開催しました。



7日：女川町等との合同現場見学会を開催

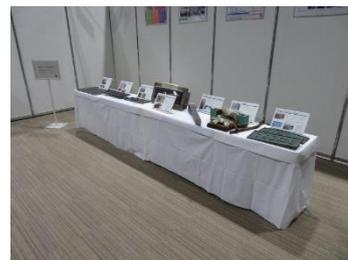
技術の習得・継承を図るべく、女川町役場・石巻港湾事務所・東部地方振興事務所（水産漁港部）・東部下水道事務所・東部土木事務所による合同現場見学会を開催しました。



26～27日：2017 防災産業展 in 仙台

“震災遺物” 展示会を開催

防災産業展（仙台国際センター展示棟）において、津波により被害を受けた公共土木施設の“震災遺物”出前展示を行いました。今年の防災産業展は『世界防災フォーラム2017』や『ぼうさいこくたい2017』と連携して開催されたため、国内はもとより世界各地から多くの方々が来場してくださいました。



30日：防災集団移転促進事業の

建築工事可能地区数が約99%に

11月末日時点の県内の防災集団移転促進事業の建築可能地区数が、約99%になりました。

国・宮城県全体のトピックス

7日：女川町災害公営住宅横浦地区 鍵引き渡し式

9日：三陸沿岸道路 南三陸道路
(南三陸海岸IC～歌津IC) 開通

国土交通省が復興のリーディングプロジェクトとして加速的に整備を進めている三陸沿岸道路「南三陸道路」のうち、「南三陸海岸IC～歌津IC間」が開通しました。開通により、沿岸被災地の復興を力強く後押しするとともに、南三陸地域の産業・経済の活性化や観光振興が期待されます。



15日：日本女子プロゴルフ協会からの寄付金の贈呈

一般社団法人日本女子プロゴルフ協会（LPGA）の原田香里副会長、若林舞衣子選手、土肥功留美（どひくるみ）選手から「東日本大震災みやぎこども育英募金」へ寄付の目録が贈呈されました。



16日：第8回復興加速化会議を開催

国土交通省、復興庁、被災三県、建設業界団体等が出席し、東日本大震災の復旧・復興事業の施工確保対策等について意見交換を行いました。

16日：石巻市災害公営住宅伊勢畑地区 完成式典

26日：貞山運河等桜植樹事業への寄付目録贈呈

県は、運河群の復旧に取り組むとともに、運河沿いに復興と鎮魂のシンボルとして桜の苗木を植樹する活動に取り組んでおり、本事業の趣旨に賛同いただいた三井住友海上火災保険株式会社から、寄付金の目録が贈呈されました。



土木部のトピックス

1～15日：石川県庁でみやぎの復興まちづくり
パネル展開催

石川県庁19階においてパネル展を開催しました。5,000人を超える石川県の皆様にご来場いただき、みやぎの現在（いま）を感じていただくことができました。

15日：仙台塩釜港（仙台区）高松2号ふ頭
供用開始

東北地方整備局と宮城県で整備を進めていた高松2号ふ頭が完成し、供用を開始しました。



18～22日：第1次災害査定を実施

10月18～19日にかけての台風18号により被害が発生した公共土木施設について災害査定を実施しました。県市町村合わせて144件、約15億9千円の査定決定となりました。



20日：災害査定臨場研修を実施

実際の災害査定状況に触れることで災害対応力及び技術力向上を図ることを目的として、県及び市町村等の災害実務担当者を対象に第1次査定の登米市の現場で臨場研修を実施しました。



国・宮城県全体のトピックス

8日：東松島市立鳴瀬未来中学校新校舎落成式

鳴瀬未来中学校の新校舎が、東松島市野蒜字上野蒜に完成し、成人の日の8日に校舎落成式が行われました。式では、渥美巖市長らが「新校舎で思い出を作ってください」「周辺の豊かな自然とともにのびのびと過ごしてほしい」などとあいさつしました。



20日：大谷海岸地区復興事業着工式

東日本大震災により甚大な被害を受けた大谷海岸地区については、これまで、防潮堤と背後のまちづくりを含めて関係機関と調整・協議を行ってきました。



この度、復興工事に着手する運びとなったことから、関係者への感謝の意を表するとともに、地域の方々をはじめ広く伝えるため、県と気仙沼市が共催で、着工式典を開催しました。

整備内容については、当初の計画では砂浜部分に防潮堤をつくる予定でしたが、計画の見直しにより、内陸側の国道をかさ上げし防潮堤を整備し、砂浜を保存することとなりました。また、後背地もかさ上げし、道の駅や多目的広場等を整備する計画となっています。今後、県において防潮堤を、気仙沼市において道の駅等を整備します。

28日：女川町荒立住宅 入居式

東日本大震災で被災した女川町では、災害公営住宅の整備が進んでおり、集合住宅タイプの「荒立住宅」が完成し、町内の集合型災害公営住宅が全て完成しました。同住宅は2棟5階建てで2K～4LDKの60戸を整備し、住棟間にはイベント開催が出来るコミュニティ広場を整備しています。



土木部のトピックス

24日：(主)岩沼蔵王線 志賀姥ヶ懐トンネル貫通

主要地方道岩沼蔵王線大師・姥ヶ懐工区のうち、岩沼市大師地区と村田町姥ヶ懐地区を結ぶ「志賀姥ヶ懐トンネル」が貫通したことから、貫通式を開催しました。



26日：～住宅・社会資本～再生・復興フォーラムを開催

震災から7年を迎えるにあたり、復旧・復興事業の進捗状況や発展期の取組みを示すとともに、震災の教訓とその伝承に向けて、政策研究大学院大学 徳山教授、東北大学大学院工学研究科インフラマネジメント研究センター 久田センター長より講演をいただきました。



26日：宮城県土木部技術研究発表会を開催

住宅・社会資本再生・復興フォーラムに合わせ、技術研究発表会を開催し360名が参加しました。



30～31日：公共土木施設災害復旧事業研修会

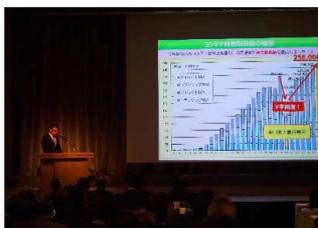
公共土木施設災害復旧事業の災害査定実務を行えるよう、現地調査から朱入れまでの一連の流れを実践する研修会を1泊2日で開催しました。模擬査定の講師には4人の「災害復旧技術専門家」を招き、本番さながらの状況で演習を行いました。



国・宮城県全体のトピックス

8日：仙台国際貿易港首都圏セミナー開催

宮城県・仙台市・仙台商工会議所など官民で組織する仙台国際貿易港整備利用促進協議会は、東京都内において「仙台国際貿易港首都圏セミナー」を開催し、荷主企業や物流業者、船会社など約440名に御参加いただきました。



11日：石巻市「北上観光物産交流センター」がオープン

センターは木造平屋の延べ面積約92㎡で、被災した旧北上総合支所跡地や旧吉浜小学校跡地、集団移転元地を活用し、約3mかさ上げた土地に整備されています。観光情報の発信や北上の美しい風景写真の展示を行うと共に、北上町十三浜で採れた水産加工品や地域特産米、野菜類の販売もしており、地域観光の拠点として、観光振興および地域活性化を図ります。



15日：カメイ株式会社、損害保険ジャパン日本興亜株式会社との包括連携協定および災害時の支援協力に関する協定

カメイ株式会社とは、防災・減災に関すること、県産品の普及拡大に関することなど全5項目、損害保険ジャパン日本興亜株式会社とは、防災・減災に関すること、女性活躍推進に関することなど全6項目で連携します。



28日：気仙沼向洋高改築工事（建築工事）完成

震災で被災した気仙沼向洋高校の移転・建替え工事のうち、建築部分が完成しました。



土木部のトピックス

3日・25日：「住宅再建相談会」に職員を派遣

気仙沼市及び石巻市で行われた、住宅再建相談会に職員を派遣し、県の住宅再建支援制度や各種住宅施策等についての相談に対応しました。



9日：防災ヘリコプター管理事務所新築工事完成

防災ヘリコプター管理事務所新築工事が完成しました。旧ヘリポート施設は東日本大震災で被災したため、仙台空港に隣接する岩沼市下野郷中坪地区へ移転復旧したものです。このあと外構や土木工事等を経て平成30年4月から供用予定です。



17日：釜閘門の地元住民向け現場見学会を開催

北北上運河釜閘門（定川北閘門）の復旧工事は、施工中に明治期に造られた木造閘門の一部が出土し、「北北上運河釜閘門遺構調査委員会」を設置して保存方法を検討するなど施工にあたり多くの課題がありました。閘門部分の工事が完了することから、地元住民を対象とした現場見学会を開催しました。



27日～3月18日：兵庫県「人と防災未来センター」でみやぎの復興まちづくりパネル展を開催

兵庫県「人と防災未来センター」にてパネル展を開催しました。多くの来場者へ宮城県の復興を伝えることができました。



国・宮城県全体のトピックス

2日：みやぎ絆大使 サンドウィッチマンからの「東北魂義援金」贈呈

みやぎ絆大使のサンドウィッチマン伊達みきおさん、富澤たけしさんが、「東北魂義援金」を贈呈するため、宮城県庁を訪問しました。「東北魂義援金」は、サンドウィッチマンのお二人が、東日本大震災の被災者支援のため全国から集めたものです。義援金は「東日本大震災みやぎ子ども育英募金」として、被災した子どもたちへの支援に活用されます。



11日：東日本大震災から7年（みやぎ鎮魂の日）

19日：日本航空株式会社との連携協力協定

宮城県と日本航空株式会社は、「観光振興」と「人材育成」に協力して取り組むため、連携協力協定を締結しました。観光振興分野では主に県内の観光資源の掘り起こしやプロモーション活動を、人材育成分野では観光人材の育成や観光施設等への接遇研修などを協力して行うこととしています。



23日：宮城県石巻合同庁舎開庁式

東日本大震災で被災し移転建て替えを進めてきた石巻合同庁舎が完成しました。新庁舎は鉄骨5階建てで、非常用発電設備や食料備蓄倉庫を設置するなど、防災拠点機能を備えているほか、多様な行政ニーズに対応できる利便性の高い庁舎として、ユニバーサルデザインへの配慮や、国際化に対応すべく総合案内板を4カ国語表記としています。



25日：三陸沿岸道路 本吉気仙沼道路（大谷海岸IC～気仙沼中央IC）開通

開通により、気仙沼市へのアクセスが向上し、交流人口拡大や滞在時間の増大など観光の活性化など様々な効果が期待されています。



土木部のトピックス

1～2日：東京・丸ビル「MARU de MIYAGI2018」パネル展を開催 みやぎ絆大使による復興PR

三菱地所及び河北新報社主催のイベント

「MARU de MIYAGI2018」

（会場：東京都丸ビル）の場をお借りして、復興まちづくりのパネル展示を行いました。1

日には、みやぎ絆大使であるサンドウィッチマンにみやぎの復興と魅力についてPRしていただき、会場がにぎわいました。



17日：岩沼海浜緑地公園で「桜植樹会」を開催

「貞山運河再生・復興ビジョン」に基づき、東日本大震災からの復興の象徴、津波防災意識の醸成や未来への震災体験の伝承を目的として、官民連携で岩沼海浜緑地公園において、植樹会を開催しました。



25日：（一）弘川町向線 伊里前工区開通

一般県道弘川町向線は、津波により大きく被災した旧歌津町中心部の伊里前地区と弘川地区を結ぶ、重要な幹線道路であり、今回の供用により、安全で円滑な交通確保が図られるとともに、歌津地域の復興を加速させ、水産業や観光振興にも大きく寄与することが期待されています。



28日：みやぎ復興住宅整備推進会議を開催

住宅・まちづくりに関する情報を関係機関で共有し、全国のモデルとなる復興住宅整備を目指すことを目的に、平成24年度から開催されている当会議を今年度はサロンを含め3回開催しました。

